『研修報告』

# 佐賀・佐世保・平戸の旅

研修部　小野英治

佐伯史談会の平成十一年度県外研修は、十一月十二日から十三日で、佐賀市内と佐世保の海上自衛隊佐世保史料館、平戸市内見学を主目的として実施された。

例年史談会の県外研修は十月であったが、二度の台風襲来で十一月としたが、これは時期的に各地で行事が重なり参加者が少なく、十三名となったのは残念であった。

十二日は午前中、小雨であったが、佐賀市内には予定どおり十一時半頃到着、県立博物館前の駐車場で弁当を食べて入館する。充実した展示内容で、特別展で「近代化の軌跡」が隣接する美術館で開催されていて、当日は好運にも天皇在位十周年ということで無料であり、予定時間を超過しての有意義な見学となった。

明治維新の原動力は薩長土肥といわれるが、その肥前佐賀藩の先進兵器の製造は抜群であった。その遠因は寛永十九年（一六三九）以来、福岡藩と一年交替で長崎警備にあたっていたが、文化五年（一八〇八）、イギリスの軍船フェートン号がオランダ国旗をかかげて不法に入港、オランダ商館員を人質にとって薪水（しんすい）・食料を要求し、長崎奉行は警備の佐賀藩兵が少なくこれを受け入れ、後に責任をとって切腹する。佐賀藩主鍋島斉直も百日の逼塞（ひっそく）を命ぜられたところから、外国に対する軍備強化となり、洋式砲の研究が始まり、反射炉をつくり、鋳鉄砲の生産となっていったのである。それは江戸品川台場の備砲も江戸幕府からの注文で製作するほど優秀なものであった。これらがよく理解されるように展示されていたのには感心した。

その後、佐賀城鯱の門を見て、大隈重信生家を訪れたが、佐賀は戦災を受けなかったので道路は曲折してわかりにくいのには困った。その上、武家屋敷等は大隈邸以外には残されていないのが残念であった。大隈重信記念館も隣接しているが、案内説明者の詳細な説明も時間の関係でゆっくり拝聴することはできなかった。

佐世保資料館へは午後三時半に予約していたが、高速道路のおかげで、時間どおり到着、自衛官の案内で海軍

の歴史から海上自衛隊の現状等、映像・展示等一時間はあっという間で、もっと時間がほしいところであった。

ここより一時間余で平戸口の田平町にある国民宿舎「たびら荘」に到着、夜は宴会で話がはずみ、有意義な懇親会となった。

翌日平戸大橋を渡り、平戸城から松浦史料館、三浦按針墓等見学したが、松浦氏は戦国時代に最盛期を迎え、内実五十万石余といわれていたのは海外貿易による利益が大であったからである。

その後、最後の見学地である松浦市の梶谷(かじや)城は山城で、松浦氏の初代、源久(ひさし)が延久元年(一〇六九)築城、戦国期まで長期間存続して、石垣や天守台等残り、ここよりの眺望は雄大で、水軍の城がよく理解できる。

伊万里で遅い昼食をとり、武雄北インターから高速道に入り、六時頃佐伯に帰着した。

研修部としては、もっと多く参加してほしかったと思うが、今後は時期と場所等再検討して、充実した研修内容として実施したいので御協力方お願いいたします。

松浦史料館前で